

117期通信

北海道小樽潮陵高等学校 1 学年通信
令和2年 10月21日(水) 発行 第17号
潮陵 1 学年団

☆特別号 NO4

今回は、柳澤先生(国語担当)に書いて頂きました。ご覧ください！

「受験に一度失敗している反面教師として思うこと」

生徒から私がどのようなタイプに見えるかよくわかりませんが、真面目な性格の人ととらえている生徒が多いかもしれません。確かに性格的に全く不真面目というわけではないと思いますが、自分では、あえて言えば変な所で真面目か、すこしへそ曲がりではないかと思っています。そのことは受験に関してはあまり歓迎すべきことではないと思います。

現役で大学に合格する人の多くは(あくまでも多くはですが)、私とは逆に素直さと集中力を兼ね備えている人だと思います。たとえば、私が、他校で3年間偶然担任になり、東大の理1に現役合格した生徒の中に、センター試験で、900点満点中875点程度とった生徒がいました。この生徒は情緒が安定していて、物静かで、人の話をスポンジのように吸収できる素直さを持った生徒でした。彼は塾には特に行かずに学校の授業、講習とZ会の添削で成績を維持していたと記憶しています。また、生活習慣がしっかりしていて、規則正しい生活を送り、授業中の態度も立派でした。その学校では他にも東大に入ったり、北大の医学部に入ったりした生徒はたくさんいましたが、人格的にも成熟していると強く感じさせられたのが彼でした。彼は囲碁将棋部でしたが、どこか藤井聡太君のような雰囲気がありました。彼は確かセンターで国語と数学は満点だったはずですが、理系の彼にとって数学は得意分野ですが、3年間国語を教えた身としては国語で大失敗してほしくなかったのも、結果をきいて、ほっとしたことを記憶しています。

彼のような生徒を見ていると、自分の高校時代は似て非なるものだなと思います。似ている所は、彼も私も派手な舞台上で活躍するタイプではなかったところかなと思います。また、先生の教え方が良いとか悪いとか批判するタイプではない所も似ていたと思います。彼の場合、きっと先生の教え方の良いところのみをすくい取ることができるタイプで、私は当時、先生を批判できるほど自分が相應の理解力を持っているという自信がないタイプだったと思います。

今、高校時代を振り返ると、上記の彼とは違い、素直さと集中力の2面において、現役で合格できるタイプではなかったと思います。確かに自分の好きな唯一の科目であった歴史(私は日本史、世界史両方とも受験科目で使いました)は、それなりに集中できていたと思います。(ちなみに国語はそこそこの成績でした)しかし、他の科目の時には、集中力を持続できず、趣味である音楽鑑賞や読書(漫画を含む)に現実逃避していました。特に私の高校時代は深夜ラジオが流行っていて、ビートたけしや中島みゆきのオールナイトニッポンとかミスDとか全米トップ40とか全英トップ20とかの音楽番組を欠かさず聴いていたので、深夜3時前後まで起きていたことが多く、完全に体内時計が狂っている状況でした。やはり、規則正しい生活は大切だと思います。

また、私はみんながそろって受験に頑張っている時期に、みんなと同じように時間を有効活用できませんでした。例えば、高校3年の時に、友達何人かで公立の図書館に何度か自習に行きましたが、私は雑誌コーナーで映画雑誌の「ロード・ショー」とかを読んでその時間を過ごしていました。その時真面目に自習していた記憶がありません。苦手な数学や英語などやることはたくさんあったと思いますが、みんなが集中している時に、同じように集中できない自分がいました。

こんな調子でやっていたので、1回目の共通一次(後のセンター試験)は惨憺たる成績でした。3年生の初めくらいまでは、自分の目標とする大学(当時は北大だったかな)も狙えるんじゃないかと担任の先生に言われていたのに、見事に失速してしまいました。まあ、あんな体たらくぶりで現役で大学に入っても、真面目に受験勉強している人に悪いなというレベルでした。

私は1浪でなんとか希望する大学に入りましたが、浪人後、劇的に生活態度が改まったわけではありません。自分が希望する大学に入ったのは、実力というよりも、運によるところが大きいと思います。運も実力のうちという言葉はありますが、本当は実力できちんと入るのが良いと思います。実力相應の所に入學・卒業しないと、後で色々問題が生じることも多いと思います。

生徒のみなさんには気の毒ですが、今の受験システムだと、私の高校時代のような生活習慣や学習態度では、大学はますます入りづらい所になっていると思います。(特に、国公立や難関私立がそうで、特に私のような文学部系の国立志望者は厳しいと思います。)潮陵生は、文武両道で部活動も忙しくやっている生徒が多いと思うので、今の受験システムに対応するには、やはり1年生からやるべきことを着実にやり、生活習慣をうまくコントロールする必要があります。みなさんのほうが、私よりはそれをちゃんとやれると信じています。

